


沖縄国際大学 平成 25 年度 FD 支援プログラム成果報告書

下記内容により、FD 支援プログラムの取り組みが完了いたしましたので、「FD 支援プログラム成果報告書」にて、ご報告いたします。

報告者氏名	尚 真貴子 	所属・職名	総合文化学部・准教授
プログラム名称	スペイン語の e ラーニング教材作成の試み ースマートフォンによる学習を視野に入れてー		
実施及び成果の 要旨	<p>本プログラムの申請者である筆者とスペイン語非常勤講師 4 人は、共著で 2012 年 3 月に本学の研究成果奨励費の助成を受けて入門教材『オキナワ・ラティーナースペイン語への架け橋ー』112pp.その後、2013 年 3 月には朝日出版社から総合教材『ディエゴと日本再発見！ー初級スペイン語ー』112pp.を出版した。この教材の開発経験を活かし、Moodle2.4 で e ラーニング学習教材の作成に取り組んだ。Moodle2.4 はスマートフォン（以下スマホ）やタブレット端末にも対応しているため、隙間時間の自主学習を可能にする。</p> <p>Moodle 学習支援システムのヨーロッパ言語のコース (https://bee.okiu.ac.jp) 内に、『ディエゴと日本再発見！』のコンテンツをベースにした e ラーニング教材『2013 スペイン語』を置いた。ただし、2013 年度版は、2014 年度に本格運用するにあたってのパイロット版とした。作成した問題の種類は、1. 基礎単語 [多肢選択問題]、2. 動詞の活用 [組み合わせ問題]、3. 基礎会話 (リスニング) [多肢選択問題]、4. 応用単語 [多肢選択]、5. 動詞の活用 (ランダム) [組み合わせ問題]、6. 応用会話 (リスニング) [多肢選択] である。</p> <p>これらの問題を、2013 年 10 月～12 月に、スペイン語の一部のクラスにおいて、学生に提供し、学習結果やアンケートを基に学生の反応を見た。また、他大学のスペイン語の教員からも、問題に関するコメントをもらった。その結果、今後、e ラーニングを実施するにあたり、4 つの改善点を見つけることができた。①多くの問題を提供すると学習者が不得意な問題を回避するため、提供する問題の種類を 1 つに絞る。②音声はパソコン環境やスマホの機種によって左右されるため、補助的なものとして位置づける。③構成を教科書のような第 1 課から 14 課までの課仕立ての場合、学習者が該当する課のみの学習に留まるため、レベル 1 からステップアップできる 14 段階のレベルで構成する。④各レベルの到達点を明確にするため、レベルごとに到達テストを設ける。</p> <p>以上の 4 つの改善点をもとに、2014 年 2 月～3 月に 2014 年度版のスペイン語の e ラーニング教材『*西 2014 スペイン語』を作成し、Moodle のヨーロッパ言語コースの中に教材を置いた (別紙①を参照)。この教材の本格運用は 5 月から行い、学生の授業外学習の確保を図る予定である。</p>		
実施期間	自 : 2013 年 04 月 01 日 至 : 2014 年 03 月 31 日		

※共同実施者 (2 人以上の場合は、別紙添付のこと)

申請者氏名	印	所属・職名	
申請者氏名	印	所属・職名	

目 的	<p>学生の多くは、パソコン向けのウェブサイトの閲覧のために、スマホを使用している。また、一部の学生は、自宅やアパートにインターネットが接続されておらず、ネットの使用はスマホのみという場合もある。今後ますますスマホの普及率が伸びていく状況を考えると、スマホからアクセスできる学習環境を整える必要がある。</p> <p>そこで本プログラムは、学生が授業外で気軽にスペイン語の自主学習ができるように、また、ネット接続の有無で学習環境に差異がでないように、スマホからの学習にも対応できるeラーニング教材を作成することを目的とする。</p>
活 動 内 容	<p>2013年の9月までに、パイロット版として、スペイン語IIのシラバスの範囲である第5課から第10課までのeラーニング問題を作成し、Moodleのヨーロッパ言語のコース内に教材を置いた(別紙②を参照〔第5課〕)。2013年の10月～12月には、CALL教室において、福地(2クラス)、又吉(1クラス)の授業内に、eラーニングの問題を学生に提供して、反応を見た。eラーニングを試した学生からは、一見、難しいと思う問題でも、反復学習を行うことで解けるようになるのは面白いとのコメントをもらった。パイロット版は、教材の動作確認を確認するため主にパソコンによって取り組まれたが、スマホからの自主学習を目指しているため、初回には、OHPを使用して、スマホからのアクセス、学習方法などの説明を行った後、学生にスマホでeラーニングの問題を解いてもらった。クラスでの活動を踏まえ、2014年2月から3月に、2014年度版のeラーニング『*西2014スペイン語』を新たに作成した。</p>
成果・結果・効果	<p>まず、学習効果であるが、2013年度はパイロット版であるため、提供された問題の種類は多かったものの、それぞれの問題数は少なかった。よって、学生の学習効果などは、はっきりしない。そこで、2014年度は、学習効果を明らかにするために、問題の種類を絞り、教材の提示方法を変えた。まず、学習の到達点を明確にするために、課仕立てでなく、14段階で構成した。また、問題数を5問から10問に増やした。それぞれのレベルに練習問題として1. チェック!(多肢選択問題)、到達テストとして2. チャレンジ!(多肢選択問題、穴埋め問題)の2種類の教材を用意した。チャレンジでは点数に応じて、100点の場合は「100点満点おめでとう! 次のレベルに進みましょう!」、70点～99点では「よくできています! あと少しで満点です!」、69点以下では「もう少し頑張ろう!」と学習者を叱咤激励するコメントができるようにした(別紙③を参照)。このように、学習へのモチベーションを高め、レベルアップへ繋がる工夫をすることで、学習効果が生まれることを期待する。</p> <p>次に、スマホによる学習であるが、本プロジェクトではスマホによる学習を視野に入れ開発を行ったものの、実際にはスマホから教材が置かれているコース内に入るまでにかかなりの時間を要してしまったことが原因で、隙間時間に気軽に学習できる学習方法を上手く定着させることができなかった。よって、2014年度は、Moodle学習支援システムのヨーロッパ言語のコース(https://bee.okiu.ac.jp)にQRコードでスムーズに入れるようにした。また、2013年度版では、教材に使われている写真や絵の素材が統一されていなかったため、スマホの機種によっては画像の読み込みの速度が遅く、はっきりと表示されないこともあった。そこで、2014年度版では画像を統一した。このように、2014年度版eラーニング『*西2014スペイン語』の提供にあたり、技術面における改良も図った。</p>
今 後 の 展 望	<p>2013年度版の改善点を反映させた2014年度版eラーニング『*西2014スペイン語』を5月から運用する。レベル1～レベル14までの14段階をステップアップする仕組みを整えたため、スペイン語Iからスペイン語IVまでのスペイン語を学習する学生全てを対象としたeラーニングとなる。レベル1から学習を始め、スペイン語Iの場合はレベル5、スペイン語IIはレベル10、スペイン語IIIとIVはレベル14を到達点にした。スペイン語Iの範囲にあたるレベル1から5の練習問題『チェック!』では、初修の語学に対する学習者の精神的負担を和らげるために、絵を多く使用した語彙の問題に特化した。レベル6からは絵を使用せず、習熟度にあった進出の単語と文法を、既習の単語と文法と共に反復学習できる問題にした。また、レベル1～レベル14の選択肢の全てに音声を付けたことで、語彙や文法の学習と同時に、発音やリスニングの強化も併せて図った。到達テスト『チャレンジ!』では、各レベルのテストで満点を取ることができれば、次にレベルアップすることができるため、ゲーム感覚で楽しみながら授業外学習に取り組んでくれることを望む。</p> <p>2014年度からはMoodleのアカウントを作らずとも大学のIDとパスワードだけで学習できるように整備されたため、eラーニング『*西2014スペイン語』は、全学生が自由に使用できる教材になった。このeラーニングが、スペイン語を履修中の学生のみならず、スペイン語を履修した学生、スペイン語検定を受験する学生、また、スペイン語は受講していないがスペイン語に興味のある学生にも、気軽に利用してもらえるような教材になることを願う。</p>